

自見先生からのご寄稿いただきました

参議院議員 自見はなこ 活動報告

「国民医療の発展に向けて」



全国の医師連盟の先生方におかれましては、地域医療の要となり、医師会活動を牽引していただき、加えて医師連盟活動にもひとかたならぬご厚情を賜り深く感謝申し上げます。



厚生労働委員会質問 (12月5日)

先生と、宮城5区の勝沼栄明先生が落選されましたが、現在も捲土重来で頑張っておりますので、引き続き国政へ戻ってきてくださる日を心待ちにしております。

二〇一七年は、それぞれの地域での各級選挙でも大変お世話になりました。十月二十二日に投票となった衆議院議員選挙では、日頃から指導いただいている厚労関係の衆議院議員の先生方を中心に一月間、私も全国応援行脚をいたしました。どの選挙事務所にも、医師連盟の推薦状が神棚の近くの場所に貼ってありまして、それぞれの地域での医師連盟活動に頭が下がる思いでした。自民党の多くの候補者を当選へと導いてくださったとして、誠にありがとうございました。



厚生労働委員会 加藤勝信厚生労働大臣 (12月5日)

今年、議員として初めての診療報酬改定の時期を経験させていただきました。日本医師会横倉会長、日本歯科医師会堀会長、日本薬剤師会山本会長と三師会の会長が揃って、自民党の二階幹事長と、岸田政調会長へ要望に行く場面から、急転直下、決定に至る過程が始まり、横倉会長と麻生大臣、加藤大臣、財務省、厚労省を交えての回数にわたるボールの投げ合いの空気を間近で感じさせていただきました。診療報酬は、高齢化社会が急速に進展するなかでの医療提供体制の原資である一方で、財務省もバランスシートの理論から抑えにかかる、それぞれに背負っているものがある大変な戦いです。それぞれの地域の会員の先生方の医師連盟活動の積み重ねの上に、横倉会長の発言にも重みと凄みが増すと肌で感じた次第です。診療報酬の本体がプラス〇・五五〇であったがために、介護報酬はプラス〇・五四〇、障害福祉サービス報酬はプラス〇・四七〇を叩き出すことができました。社会保障全体の牽引役は医師連盟だと改めて緊張のなかで感じました。



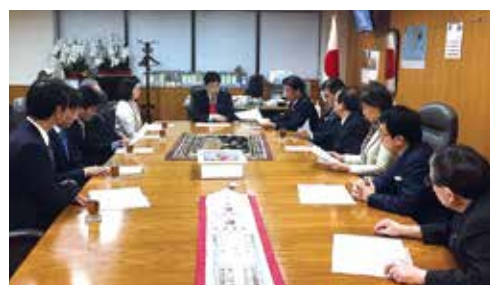
医師養成の過程から医師偏在是正を求める議員連盟決議 林文科大臣申し入れ (12月14日)



医師養成の過程から医師偏在是正を求める議員連盟決議 加藤厚労大臣申し入れ (11月14日)



テドロスWHO新事務局長とともに (12月13日)



救急医療勉強会政策提案 加藤厚労大臣申し入れ (12月6日)

2017フォーラムが東京で十二月に開催されたことです。UHCフォーラム開会式典では、安倍総理、グテレス国連事務総長、キム世界銀行総裁、テドロスWHO事務局長、レックU NICEF事務局長に続き、横倉会長が、世界医師会長としてご挨拶され、各人がUHCの意義とともに、SDGs(持続可能な開発目標)の目標の一つに掲げられているように世界で二〇三〇年までにUHCを達成することを誓い合いました。

病に侵され、医療費を支払うと家族の経済的負担になることから治療をしないことを選んだという話でした。未だ人類の半数が、経済苦と病苦の二つの間に苦しめ、医療へアクセスできない。二〇三〇年までに世界でUHCを達成したいと述べられました。折しも、横倉会長がシカゴでの世界医師会長就任式でのスピーチで紹介された、一九六一年に国民皆保険が導入される前のご家族の風景として、薬代が支払えない地元住民のために、自分の着物を売って薬代に当てる母親のエピソードと私のなかで重なりました。

この約一年間、合計十一回委員会等で質問させていただきましたが、それ以外の各種議連などの活動は、衆議院選挙の終わった十一月に圧縮して行い、何とかまとめることができ、それぞれこの年末に大臣要望として、持参することができました。今回は、写真でご紹介し、内容については、次号の紙面でご紹介させていただきます。来るべき二〇一八年、よき新年をお迎えになれることを祈念いたしますとともに、この一年本当にお世話になりましたこと心より感謝申し上げます。



自民党岸田政調会長へ診療報酬の要望活動 (12月12日)



医療分野における情報管理勉強会 (11月29日)



骨髄・さい帯血バンク議員連盟決議 加藤厚労大臣申し入れ (11月29日)



女性医療職エンパワメント推進議員連盟決議 加藤厚労大臣申し入れ (12月15日)